



「九条の会・泉佐野」を結成しました

あなたも賛同者になって下さい

五月七日、泉の森ホールで「九条の会・泉佐野」が約百七十名の参加で結成されました。

これは、昨年六月、大江健三郎さんや小田実さんらが、「日本国憲法は、いま、大きな試験にさらされていきます。……日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、『改憲』のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、今すぐ始めることを訴えます」との呼びかけにこたえ、泉佐野市でも元市長の向江昇氏や市内在住の大学教授・医師など十五氏が市民に呼びかけ、結成に至ったのです。

「九条の会・泉佐野」結成に向けて「呼びかけ人」からのひとこと

元市長 向江 昇

昭和二十年八月敗戦。当時十一歳、小学五年生の私は、台湾台中市にいた。二ヶ月前までは、軍港のある基隆近くの町に住んでいた。沖縄開戦の一年前は、米軍は台湾攻撃に入り、毎日B25機の空爆で防空壕住まい。通学中、グラマン戦闘機の機銃攻撃を受け、夢中で溝にとびこみ、九死に一生を得たが、学友数人は死亡した。

昭和二十年、父が病死。同年八月敗戦。日本に引き揚げのため、収容所へ。帰国船を待つこと六ヶ

結成総会は、勇壮で元気な「三宅太鼓」で始まり、呼びかけ人の一人でもある、作家の水野喬さんの「のんき節・憲法バージョン」で改憲勢力をチクリと風刺。

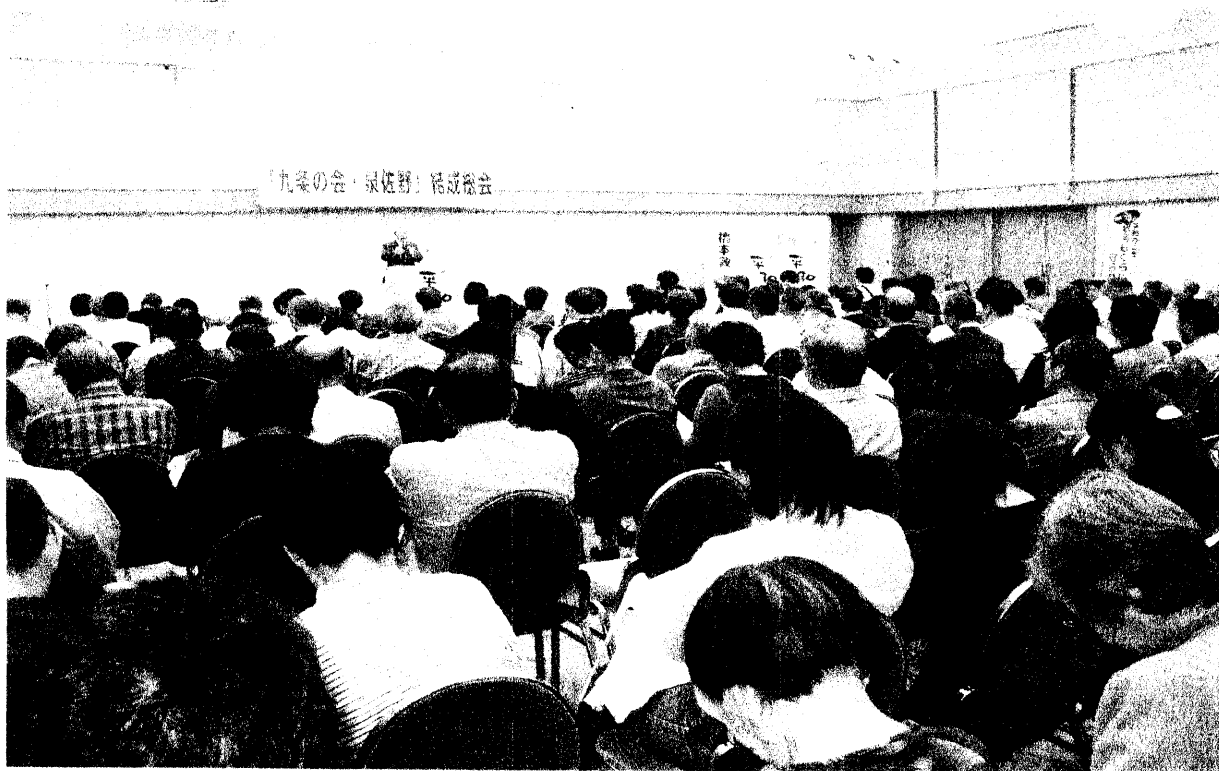
引き続き、十五人の呼びかけ人を代表して杉島幸生弁護士が、「いま憲法が危ない。九条は日本の宝。市民の力で、改憲をストップさせよう」と訴えました。

記念講演は、大阪平和委員会会長であり弁護士でもある橋本敦氏が、大義なきイラク戦争への自衛隊派兵など重大な憲法蹂躪の暴挙が先行し、小泉内閣のもとで、政党も「創憲」や「加憲」の名で、「護

憲」から「改憲」にむけて動き出している。改憲のねらいは、憲法前文と九条、「戦争しない国・日本」をアメリカと一緒に「戦争する国」に変えることにありと強調。戦争を放棄した日本の憲法は日本の宝であるだけに、海外からも「地球という美しい惑星のためにも九条を守ってください」と訴えられていることも紹介し、国民の力で憲法とりわけ九条を守ろうとよびかけました。

集会後、「戦争はもういやだ」というフォークソングにあわせ、泉佐野駅前までパレード、沿道の市民の皆さんに憲法擁護をアピールしました。

- 大切さと不戦を訴えて行きたい。
- 岩本智之(環境問題研究者)
- 潮 虎平(歌人)
- 勝藤美男(建設業)
- 杉島幸生(弁護士)
- 関井正博(司法書士)
- 高道一郎(市職員労働組合執行委員長)
- 竹崎博一(市教職員組合執行委員長)
- 辻 正巳(元市社会福祉協議会会長)
- 中川公彦(医師)
- 福原英子(明浄女子短期大学助教授)
- 藤本文朗(大阪健康福祉短期大学教授)
- 松山 順(西方寺住職)
- 水野 喬(作家あおぎり二世の会)
- 向江 昇(元市長)
- 森 健一(関西大学教授)



あなたも「九条の会」賛同者になってください

ご協力頂ける項目に○をつけて、下記までご返送ください (ハガキに貼り付け又はFAXで)

- 1 賛同者になり、氏名を公表してもよい
- 2 賛同するが、公表できない

お名前

ご住所

TEL

FAX

